

当別ミニバスケットボール少年団



当別と太美のミニバスケットボール少年団は、団員減少のため昨年合併し、新体制で「当別ミニバスケットボール少年団」として活動しています。男子チームは、今年6月に行われた札幌地区大会で3位に入賞し、8月5日に苫小牧市で行われた「北海道ミニバスケットボール夏季交歓大会」へ出場。この全道大会では4ブロックに分かれてリーグ戦で交歓試合を行い、3勝1敗の好成績を収めました。今回は、チームを代表して、熊谷キャプテン（当別小6年）と山田副キャプテン（西当別小6年）にお話を聞きました。

全道大会で感じたこと

【熊谷キャプテン】

全道大会では、地区予選と会場の雰囲気は全く違うことに驚きました。観客からプレッシャーを与えられているように感じて、とても緊張しました。僕は、「1試合で平均17点以上を取る!」という個人目標を掲げて、全道大会へ臨みました。試合1日目は、ゴールに嫌われていたようで、ランニングシュートが決まらないことが多かったけど、2日目はとても調子が良かったです。

【山田副キャプテン】

会場に入ると地区予選と違って、出場選手の体格が大きいことにびっくりしました。僕は、「手を出したり、ファールをしない」ことを特に気をつけていましたが、オフェンス（相手

コートへの攻撃）をする時に、相手チームの選手が大きな体で立ちふさがるので、思うようにゴールの方に行くことができず焦ってしまい、ファールをとられてしまうこともありました。思い切りプレーをすることができました。



ミニバスの魅力と将来の夢

【熊谷キャプテン】

24分間という1ゲームの間（1ゲームは6分間×4回行う）、ずっとコートの中を動きながらいろいろな技術を使って試合をするのが楽しく、試合に勝った時の達成感が特に好きです。中学・高校へ進

んでもバスケットボールを続け、ベストを尽くしていきたいです。時間があれば当別ミニバス少年団へ行って、練習の手伝いもしたいです。

【山田副キャプテン】

コート全体をずっと走り回ることでも体力もつくし、ゴールを決めた時のうれしさが好きです。将来はプロバスケットボールプレーヤーになり、エスビーエーNBA（北米プロバスケットボールリーグ）やBリーグのレバンガ北海道に入り活躍し、僕も時間がある時にミニバスの練習を手伝いたいです。

同少年団では今年の秋に、全道そして全国へつながる大きな大会への出場を予定しているそうで、熊谷キャプテン・山田副キャプテンは、「今回の全道大会の経験を生かし、次は全国を目指したい」と、抱負を聞かせてくれました。

（8月8日取材）

